

季刊

博物館だより

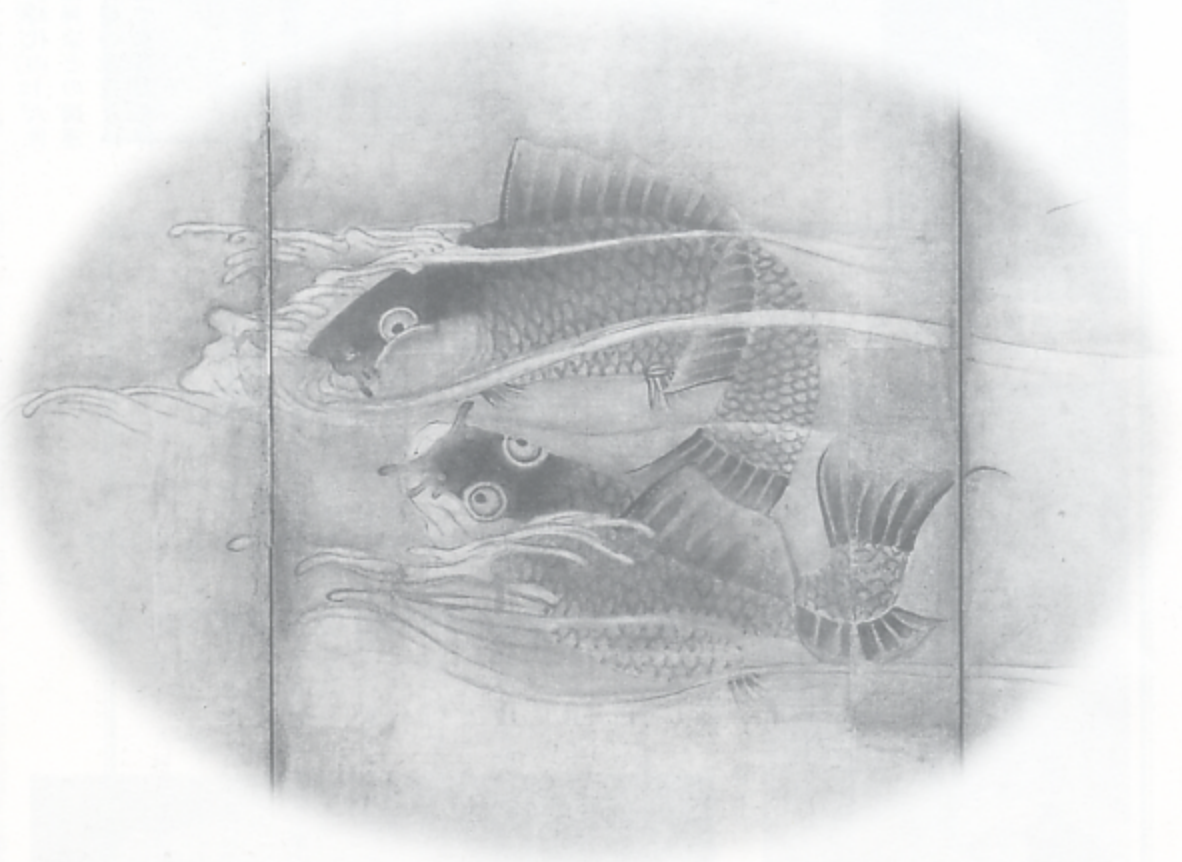
FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

65

夏の企画展

雪村展

福島県立博物館



「花鳥図屏風」(ミネアポリス美術館蔵)

雪村周繼（せつそん しゅうけい）は室町時代末期から戦国時代の十六世紀、関東、東北で活躍した水墨画家です。室町時代の水墨画は禅宗との関連が深く、雪村も禅宗の僧侶でした。しかし雪村の表現意欲は禅僧の余技というレベルをはるかに超え、その絵は現代の私たちに強烈に訴えて来る力を持っています。

戦国大名佐竹氏の一族として常陸国太田（現茨城県常陸太田市）に生まれ、小田原、鎌倉、会津などを遍歴し、晩年は三春に落ち着いたようですが、詳しいことはわかっていません。生没年すら判明せず一五〇〇年前後に生まれ、八〇才代後半まで生きたと推測されます。

本展では、海外からの里帰りを含め、雪村ならではの大胆でエキセントリックな表現が際立つ作品を集めました。雪村の強烈な表現意欲を多くの方に伝えたいと思います。

（美術担当 川延安直）

主な出品作品

「花鳥図屏風」(ミネアポリス美術館)

「四季山水図屏風」(シカゴ美術館)

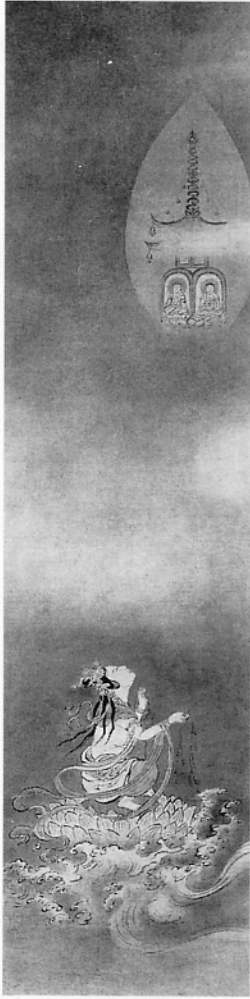
「夏冬山水図」(京都国立博物館)

「瀟湘八景図帖」(福島県立博物館寄託)

「釈迦・十羅漢図」(茨城・善慶寺)

「蝦蟇・鉄拐図」(東京国立博物館)

その他約九〇件(会期中展示替えを行います)



「宝塔を拝む観音図」
(個人蔵)



「釈迦・十羅漢図」(茨城・善慶寺)

夏の企画展

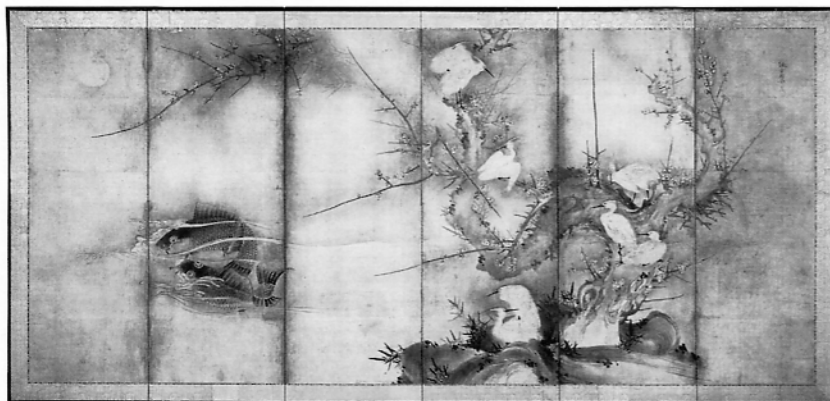
雪村展

—戦国時代のスーパー・エキセントリック—

●会期 平成14年8月10日(土)～9月23日(月・祝)



「瀟湘八景図帖」(福島県立博物館寄託・個人蔵)



「花鳥図屏風」
(ミネアポリス美術館)

企画展関連連行事のお知らせ

- 友の会主催講演会「戦国の画僧雪村と会津・常陸」
講師 小川知二氏（東京学芸大学教授）
日時 八月一日（日）午後二時より
会場 講演会会場は、いずれも福島県立博物館講堂
- 福島民報社主催講演会「禅僧としての雪村」
講師 玄侑宗久氏（福聚寺副住職・作家）
日時 八月二日（土）午後二時より
- 講演会「雪村の夢 仙人の夢」
講師 南 伸坊氏（イラストレーター・作家）
日時 八月二日（土）午後二時より
- 講座「探検しよう雪村展」バックヤード見学など展示会の裏方までご案内。
日時 九月七日（土）午後二時より
講師 当館学芸員
- ギャラリートーク 展示室で雪村作品を前にその魅力と歴史についてお話しします。
日時 八月二五日（日）・九月二日（土）午後一時三〇分より
会場 福島県立博物館実習室
講師 当館学芸員
- ポイント解説「雪村展の見どころ」
展示解説員が作品鑑賞のポイントをやさしくご案内します。
日時 八月一七日午前一〇時三〇分／八月一八日午後二時／八月二四日午前一〇時三〇分／八月三二日午前一〇時三〇分／九月八日午後二時／九月一四日午前一時三〇分／九月二二日午後二時
八月二五日と九月二日は講座終了後

■企画展「雪村展」は平成一四年八月一〇日（土）から九月三日（月）まで開催しています。
■観覧料 一般・大学生五〇〇円（四〇〇円） 高校生三〇〇円（二四〇円） 小・中学生二〇〇円（一六〇円）（ ）は二〇名以上の団体の場合の料金です。

※常設展を観覧する場合には、別に常設展観覧料が必要です。

講演要旨 企画展記念講演会

平成十四年五月十二日(日)

「地層に記録された生命と地球の歴史」

講師 京都大学総合博物館教授 大野 照文氏

*化石はどう見られていたか

化石は生物の遺骸が地層に保存されたものです。しかし昔は化石は正しく理解されていませんでした。エジプトのピラミッドを造っている石灰岩の中には、直径数センチメートルの円形の化石が見られます。これは有孔虫という動物の殻ですが、ピラミッドが造られた際に職人に払った貨幣であると考えられていました。

一八世紀初めに有名な化石の捏造事件が起こりました。ドイツの大学のペリンガー教授は、化石は土の中で神の働きでできると考えました。彼は、虫や交尾をしているカエルの化石など掘り出した化石を記述して出版しました。しかし最後に自分の名前が彫られた化石が見つかり愕然としました。学生たちが化石を作って埋めたものだったのです。

*進化と絶滅

一八五〇〜六

〇年代に出版されたイギリスの教科書の挿絵には、恐竜などの生物が生死をかけて争っている様子が描かれています。当時イギリスでは、産業革命のもと進



化論が登場、適者生存・弱肉強食により社会が変化すると考えました。進化に対する考えもその時代の世界観を反映したのと言えます。

生物はどのようにして絶滅したか一例を紹介します。ふつう卵の殻は炭酸カルシウムの円柱状の結晶が集まってできており、胎児は結晶の間のすきまから呼吸しています。ヨーロッパの白亜紀後期の地層から発掘された恐竜ヒブセロサウルスの卵の殻は、結晶が二層構造となつています。丈夫ですがこれでは呼吸ができません。このため絶滅を早めたと考えられています。ストレスなどによるホルモンの分泌の異常が起こったのでしょうか。

*生命の歴史

人間など生物の体は主に水と炭素からできています。そのようなどこにもある普遍的な材料を使っているから生命は繁栄しているとも言えます。四六億年前地球が誕生した時、プラズマ太陽風のため地球の気圧は地球から引き離され、水蒸気も二酸化炭素もない灼熱の星でした。太陽から遠いところには、水や二酸化炭素が集まってきた天体がたくさんあり、それらが木星の近くを通る時、木星の引力で軌道が曲げられ、地球に数百万個落ちてきたと考えられています。地球が生命に満ちた水の惑星であるのは木星のおかげとも言えます。

確実な最初の生命の化石は、オーストラリアの三五億年前の地層からのものです。それは細胞が集合した糸状のもので、原始的なバクテリアです。海底で熱水が湧き出しているような環境で生息していたと考えられています。

約二五億年前を境に浅い海に生物が生息しはじめました。その代表が藍藻と呼ばれる光合成を行うシアノバクテリアです。藍藻のおかげでたくさんの酸素が大気中に放出され、その後の生物界の発展につながりました。五億五〇〇万年前、現在の地球上に生息するほとんどの生物のグループが一気に誕生しました。生存競争が激しくなり、身を守るために殻をもったり海底の下に深くもぐったりする生物が登場しました。二枚貝はより大型の動物に捕食される立場でした。このため、二枚貝は海底下にもぐって生息するタイプが発展しました。これは生き残るためのひとつの戦略です。現在の人間も二枚貝に学ぶところが大きいのではないのでしょうか。

講演は、先

生独特のユーモアを交えたわかりやすい内容でした。講演後にはたくさん質問ができました。特に旧石器遺跡の捏造や学者の対応について厳しい批判が出されました。それに対して大野先生には研究者のあり方について本音で答えていただき、聴衆のみならず共感されたようです。



雪村画の模本について

川延安直 美術担当

展覧会を開催すると思いがけない資料が発見されることがある。雪村展でも、そんな新発見があった。出品作の「山水図屏風」(個人蔵)もその代表で、数年前にさる旧家から発見された。一般公開はこれが初めて。

さらに雪村の真筆ではないが、興味深い「写し」(模写)を展覧会の準備中に二点見ることができた。まず一点は「雪村筆倣牧谿瀟湘八景中軸巻模写」である。まずこの長い名称から説明しなければならぬ。この作品には四人の画家がかかわった。まず牧谿は中国の十三世紀後半の禅僧、画家である。本国では高い評価を得なかったが、日本では宝物同様に珍重され、信長・家康といった権力者の愛蔵品であった。その牧谿が描いた「瀟湘八景中軸」という作品がかつてあったのだ。これに倣って雪村が「倣牧谿瀟湘八景中軸」を描いたのである。「瀟湘八景」は雪村が好んで描いた画題であった。そして牧谿は中国画のブランド中のブランド。さぞ雪村の筆にも気合いが入ったであろう。しかし残念ながらこの雪村筆「倣牧谿瀟湘八景中軸」のオリジナルは現在所在不明である。これを江戸時代に幕府の御用を勤めた住吉広行が模写し、さらにそれを何者がが写したものが現在目にするることができる本図である。

原本が発見されない以上、忠実な模写が貴重であることは言うまでもないが、さらに興味深いことに雪村筆「倣牧谿瀟湘八景中軸」は『集古十種』にも収載されている。『集古十種』は白河藩主を勤め幕府老中となった松平定信を中心に編纂が進められた我が国初の本格的な古文化財図録である。その最後の部は「名物古画」。詳しくは触れないが徹宗・牧谿・雪舟といった錚々たる名

画が集められている。そこに同図も含まれている。当時のこととして写真はなく水墨画も木版で印刷している。微妙な墨の諧調を木版で出すのは大変困難な作業であったはずだ。これに先立って原本の模写も行われたであろう。改変を許さない忠実な模写には定信の意向があったかも知れない。牧谿の画風に倣ったものであることが珍重された第一の理由と思われるが、雪村筆「倣牧谿瀟湘八景中軸」は当時、相当知られた作品だったのである。また、江戸時代の終わり頃に編纂された画家列伝『古画備考』は日本美術史研究の基礎資料であるが、その



「倣牧谿瀟湘八景中軸模本」(三春町歴史民俗資料館蔵)



雪村の項にも雪村筆「倣牧谿瀟湘八景中軸」の巻末の一文と落款が収載されている。文末には「奉進上」の一語があり、雪村の原本が誰かに進上されたものであることが分かる。一説にはその相手は会津の戦国時代の武将草名盛氏であるとも言われる。

雪村は三春で亡くなった。そして江戸時代、白河藩主の松平定信は同図の模写を描かせ「集古十種」に収載した。一卷の模写は、雪村画の後世の評価、伝来を伝えるとともに、三春・白河にゆかりの史料なのである。

もう一点は、佐竹永海模写「雪村山水図」である。永海は会津出身で、江戸画壇の重鎮谷文晁の門人。現在残る作品は文晁風の山水図や大和絵と円山四条派を融合した穏や

かで洗練された画風のものが多い。

なかなかの大作で、雪村展出品作の「四季山水図屏風」(シカゴ美術館蔵)の画風に近い。絵の裏にある書き付けには「雪村山水文政四辛巳年佐竹盤玉寫之」とあって、また一部表具に隠れて見えないが「幅對」とも書かれており、本図が双幅か三幅対の一部であったことも分かる。落款も印章も丁寧に写されており、永海の雪村画に対する真摯な姿勢が伝わってくる。本図は文政四年(一八二二)永海はまだ盤玉と名乗っていた二十歳頃に描かれた。永海は本図を描いて間もなく文政五・六年には江戸に出て谷文晁に入門する。本図は会津にかつて伝わった雪村作品を修行中の若き永海が写したもののなのかもしれない。

今に残る永海作品の穏やかで洗練された作風からは意外に思われるが、永海は一時、雪村の末裔を自称する。雪村は常陸の武将佐竹氏の一族であり、永海も同じ佐竹姓である。雪村にあやかり自分の画風の独自性を主張したかったのであろうか。永海の画号の「周村」「愛雪」も雪村周継を慕ってのものかも知れない。

しかし、これまで雪村の影響がはつきり分かる永海作品は確認できなかった。本図は「ようやく」というか「やつぱり」あった永海と雪村を結ぶ作品なのである。ここで紹介した二つの作品はいずれも雪村の真筆ではない。しかし、後世の人々と雪村のかかわりを考える上では実にさまざまな事を伝えてくれそうである。



佐竹永海模写「雪村山水図」(個人蔵)

Q..家に中国風の人を描いた絵があるのですが、誰なのかわかりません。調べることができませんか？

A..誰が描かれているのかは画題辞典などで調べられますが、わかる場合とわからない場合があります。歴史上や伝説上の人物を描く際には、その人であることを示す約束があります。例えば『三国志』で有名な関羽の場合、長く豊かな黒ひげをはやした堂々とした武将で、薙刀のような武器を持っていたり、お付きの人に持たせていたら、大体それは関羽です。歴史書の『三国志』にも「羽はあごひげとほおひげが美しい」とあるので、立派なひげがある容顔をしていたことは事実のようです。薙刀のような武器は青龍刀といいますが、別に関羽だけが使ったわけでもないので、小説『三国志演義』の中で青龍

人物画のお約束

刀を手に大活躍しているためか、関羽といえば青龍刀というぐらい関羽の武器として定着しています。そこで、「ひげ」と「青龍刀」で関羽という図式ができあがり、描く側と見る側の約束となっているわけです。

このように約束がよく知られていなければならないと人物の特定が難しくなります。右下の人物を見てください。龍の頭に足をふんばって立ち、手にした容器の蓋を開けていますね。容器から沸き上がる液体は、液体のようでよく見ると小さな龍です。そして上空には雲間から一匹の龍が姿を現わそうとしています。どうも、この人が容器から龍を出しているようです。

この人物は呂洞賓という仙人だといわれています。あまり日本ではなじみがありませんが、道教では絶大な人



雪村筆 取りあえず……「呂洞賓」(個人蔵)

気のある現役の神様です。ただ描かれている約束に結びつく呂洞賓のエピソードは、まだみつけていません。ですから彼が呂洞賓である確証はないのです。

Q..絵を描く人は約束を勉強しなくてはいけないですね。

Q&A

回答者
美術担当
小林めぐみ

A..そうですね。中国で描かれた絵を見て真似たり、本の記述から約束を拾い出してイメージをふくらませたのではないのでしょうか。その上手な例が左下の絵です。

嬉しそうに笑っているボサボサ頭の人物がいます。隣には三本の蛙がブウツと何かを吹き出していますね。この三本の蛙がこの絵の約束です。三本の蛙を連れているのは、別名蝦蟇仙人とも呼ばれる劉海蟾という仙人なのです。これを踏まえた上で、この絵を描いた雪村というお坊さんは、自分の中にある劉海蟾のイメージをうまく表現しました。あげた左足の指はギュッと力が入り、右手は外側に反り返っています。指の先まで力を入れて、全身で気持ちよさそうに踊っているようではないですか。そうすると隣の蝦蟇も、何かを吹き出して合い

の手を入れながら一緒に踊っているように見えてきます。蝦蟇を連れた劉海蟾の絵はいくつかありますが、この愉快な雰囲気は雪村のオリジナルです。ある人物を描いたにしても、約束がわからず身元不明になってしまったり、約束は守られていてもパターン化してしまったり、約束を押えつつ絵師のオリジナル性を出して成功したり失敗したりと、色々な結果になっていると思います。人物画を見る機会があったらこんなことに注意しても楽しいのではないのでしょうか。ちなみに、絶好のチャンスは八月から始まる雪村展です。仙人や神様がたくさんやってきます。



雪村筆「蝦蟇・鉄拐」(蝦蟇部分)(東京国立博物館蔵)

トピックス

こんな本をつくりました

最近、博物館でまとめた二冊の本をご紹介します。

○『氏郷とその時代―蒲生氏郷基礎資料集成―』

(調査報告書 一三〇〇円)

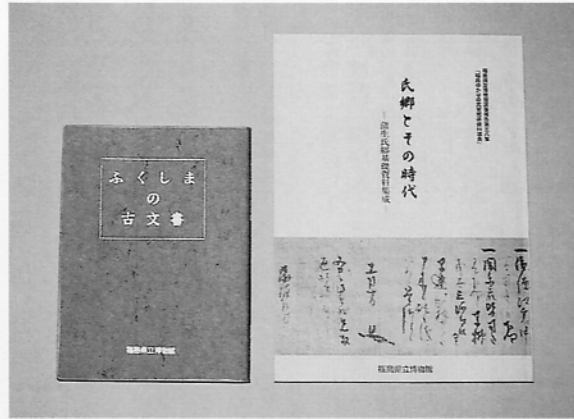
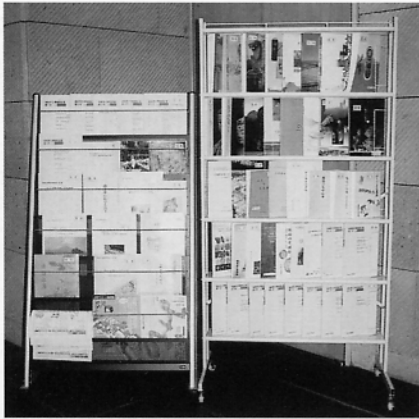
福島県とゆかりの深い蒲生氏郷という戦国武将に関する資料集です。氏郷書状として現在知られているものをすべて網羅しました。また、蒲生領時代の福島県会津・中通りの村名と村高がもれなく記された『蒲生領高目録帳』を全文翻刻しました。専門の研究者はもちろん、ちよつと本格的に調べてみようか、という真面目な氏郷ファンの方々におすすめします。

○『ふくしまの古文書』

(教育普及図書 九〇〇円)

タイトルの通り、近世の古文書の入門書です。ただし、ふつうの入門書とはちよつとちがいます。くずし字の読み方はもちろんですが、それ以外に、古文書の取り扱い・調査・整理の方法や古文書群の大切さ、「古文書を讀まなくともわかること」など、解説法以外の内容がたいへん充実しています。初心者の方はもちろん、実際に古文書を取り扱う仕事に携わっている方々まで、幅広く参考になる本です。

どちらの本も博物館で販売しています。博物館発行の図書に関する問い合わせ・注文は、福島県立博物館総務課(電話 〇二四二―二八―六〇〇〇)まで。



◎収蔵資料品展予告

「ふるさとの玩具たち」

近世から近代にかけて社寺などの縁起物として、あるいは幼児などの愛玩物として各地で作られていた土人形や張子その他の「おもちゃ」たち。現在郷土玩具と呼ばれるものの元になっているものです。大正から昭和にかけて、「地方玩具」「土俗玩具」などと呼ばれていたものを「郷土玩具」として呼び換えはじめることにより、一つのジャンルが形成されたのです。いわば郷土玩具は近代人が意識的に発見した新たな日本の文化なのです。

県立博物館には故大竹正三郎氏(元福島大学名誉教授)が生前県内はもとより全国各地で収集された、郷土玩具を中心とした二千点にもおよぶコレクションが寄贈されています。この他にも土人形などのまとまったコレクションもあり、今回の展覧会では、福島県内や東北の玩具を中心としながら、色鮮やかな郷土玩具の世界をご覧いただくこととなります。



三春人形

■収蔵資料品展(ふるさとの玩具たち)は平成一四年一〇月二六日(土)から二月一日(日)まで
■観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「会津藩の編纂物」
会期 六月四日(火)から七月二十八日(日)まで
「戦国の南奥州と雪村」
会期 八月六日(火)から九月二十九日(日)まで

講演・講座

◎実技講座
「虫かごをつくろう」
講師 技術伝承者 阿部吉致さん
日時 七月七日(日)午後一時半
「草木染め1」
講師 染織工芸家 山根正平さん
日時 八月一七日(土)午前一一時
「草木染め2」
講師 染織工芸家 山根好子さん
日時 八月一七日(土)午前一一時
「草木染め2」
講師 染織工芸家 山根好子さん
日時 八月一七日(土)午前一一時
「古文書入門4 近世②」
講師 当館学芸員 酒井耕造
日時 七月二十七日(土)午後二時
「古文書入門5 近世③」
講師 当館学芸員 酒井耕造
日時 八月二四日(土)午後二時
「古文書入門6 近世④」
講師 当館学芸員 酒井耕造
日時 九月二八日(土)午後二時
「うるしの技に挑戦」
講師 当館学芸員 小林めぐみ
日時 九月二二日(日)午後一時半
「うるしの技に挑戦」
講師 新生会会員
日時 九月二九日(日)午後一時半
「縄文土器をつくろうI」
講師 当館学芸員 渡部昌一 伊藤知雄
日時 七月二〇日(土) 海の日 午前一一時
「縄文土器をつくろうII」
講師 当館学芸員 渡部昌一 伊藤知雄

日時 七月二一日(日)午前一一時
「縄文土器をつくろうIII」
講師 当館学芸員 渡部昌一 伊藤知雄
日時 七月二八日(日)午前一一時
◎野外講座
「縄文土器をつくろう 野焼き」(大川河川敷)
講師 当館学芸員 渡部昌一 伊藤知雄
日時 八月二五日(日)午前一一時
◎展示解説員講座
「おもちゃをつくろう」
講師 当館展示解説員
日時 九月七日(土)午後一時半
◎美術講座
「福島の仏像 26」
講師 当館学芸員 若林 繁
日時 七月二三日(土)午後一時半
「福島の仏像 27」
講師 当館学芸員 若林 繁
日時 九月一四日(土)午後一時半
◎夏休み集中講座
「博物館サマースクール1」
講師 当館学芸員 渡部昌一
日時 七月二三日(火)午前九時半
「博物館サマースクール2」
講師 当館学芸員 佐々木長生 高橋 充
日時 七月二四日(水)午前九時半
「博物館サマースクール3」
講師 当館学芸員 相田 優 南雲 修
日時 七月二五日(木)午前九時半
◎友の会主催講演会
「戦国の画僧雪村と会津・常陸」
講師 東京学芸大学教授 小川知二さん
日時 八月一一日(日)午後二時
◎福島民報社主催講演会
「禅僧としての雪村」
講師 福聚寺副住職 玄侑宗久さん
日時 八月三一日(土)午後二時
◎企画展記念講演会
「雪村の夢 仙人の夢」
講師 作家・イラストレーター 南 伸坊さん

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月七日(土)午後二時
◎ギャラリートーク
講師 当館学芸員 川延安直
日時 八月一〇日(土)午後一時半
講師 明治学院大学教授 山下裕二さん
日時 九月一日(日)午後一時半
◎ポイント解説
「雪村展の見どころ」
講師 当館展示解説員
日時 八月一七日(土)午前一一時半
八月一八日(日)午後二時
八月二四日(土)午前一一時半
八月二五日(日)企画展講座終了後
八月三一日(土)午前一一時半
九月一四日(土)午後二時
九月二一日(土)企画展講座終了後
九月二二日(日)午後二時

金曜講座

郷土学習学而篇―地方の時代の地方学習―
◎第七回
「安太多良真弓 安積采女」
日時 七月二二日(金)午後一時半
◎第八回
「徳一の国―文化ふくしまのほまれ―」
日時 七月一九日(金)午後一時半
◎第九回
「仏教文化一千年史」
日時 八月九日(金)午後一時半
◎第十回
「古代『誰は誰』物語」
日時 八月二三日(金)午後一時半
◎第十一回
「もう一つの武士道歴史」

実演

「機織り」
染織工芸家 山根正平さん
日時 七月一四日(日)
「昔語り」
語り部 横山幸子さん
日時 七月二七日(日)
語り部 山田登志美さん
日時 九月二二日(日)
「会津の唐人風つくり」
技術伝承者 鈴木英夫さん
日時 九月八日(日)
◎伝統芸能公演「会津萬歳」
会津萬歳田島保存会
日時 九月一五日(日) 敬老の日 午後一時半
*開始時間の書いていない実演は、午前十時からと午後一時からの二回行われます。

常設展無料開放日

八月二二日(水 県民の日)
九月一五日(敬老の日)
*小・中学生、高校生は、学校が休みの日は、常設展示室が無料開放されます。

七〇九月の休館日

七月 一日(月)・八日(月)・一五日(月)・
二二日(月)・二九日(月)
八月 五日(月)・一二日(月)・一九日(月)・
二六日(月)
九月 二日(月)・九日(月)・一七日(火)・
二四日(火)・三〇日(月)
*八月一〇日(土)～一五日(木)までは、午後六時まで閉館します。(入館は、五時半まで)